



株式会社スコヒアファーマ

2020年9月8日

## エンテロペプチダーゼ阻害薬(SCO-792)の前臨床試験に関する論文掲載について SCO-792は糖尿病性腎臓病に対する新しい治療戦略となる可能性

株式会社スコヒアファーマの研究グループはエンテロペプチダーゼ阻害薬である SCO-792 が糖尿病性腎臓病(Diabetic kidney disease, DKD)の治療に有効であることを前臨床試験で明らかにしました。この研究成果は「*Diabetes, Obesity and Metabolism*」でオンライン公開されました。

### 論文名

Enteropeptidase inhibition improves kidney function in a rat model of diabetic kidney disease

<https://dom-pubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/dom.14190>

糖尿病性腎臓病 (DKD)は糖尿病が関連する腎合併症であり、末期腎不全の要因の一つとなっています。現状の治療としては血糖と血圧のコントロールが基本であり、治療の選択肢が限られていることからアンメットメディカルニーズが高く、新たな薬剤の開発が求められています。エンテロペプチダーゼは腸管上部に限局して存在する酵素であり、タンパク質の消化吸収に主要な役割を有しています。これまでにエンテロペプチダーゼ阻害が腎臓に与える効果は分かっていませんでした。

今回、SCO-792 を介したエンテロペプチダーゼ阻害が前臨床の DKD モデルで有効であることを初めて明らかにしました。SCO-792 は DKD ラットにおいて腎障害マーカーである尿中アルブミン/クレアチニン比(UACR)を急速に低下させました。本作用は SCO-792 による血糖低下作用の二次的な効果ではなく、エンテロペプチダーゼ阻害作用を介して発揮されていると考えられました。また、SCO-792 は腎系球体の過剰濾過を正常化し、腎臓の線維化マーカーおよび尿細管障害マーカーを減少させました。さらに、DKD では系球体のオートファジー活性が障害され腎機能低下の要因の一つになっていると考えられますが、SCO-792 はこれを改善しました。最後に SCO-792 は血圧降下剤との併用により UACR を効果的に低下させました。以上の結果はエンテロペプチダーゼ阻害剤である SCO-792 が DKD に対する新しい治療戦略になる可能性があることを示しています。

以上

本件に関するお問い合わせ先

[info@scohia.com](mailto:info@scohia.com)